

# 全日本女子選手権に出場して

竹村 奈緒美



第六十一回全日本女子剣道選手権大会に出場できましたことに、まずは常日頃からご指導ご支援、ご協力をいただいております。ありがとうございます。

十回目の全日本出場という、長いようであつという間だったこの十二年間は、一言では言いようのない貴重な時間となりました。そしてこの先の未来にとつてもこの十二年という月日は、大切にしていかなければいけない時間だと思っています。

さて、本大会では初戦より、名実ともに日本を代表する選手、そして大学時代、共に稽古に励んだ後輩との戦いとなりました。組み合わせが決まり初戦の相手を知った時は、

「まさか」

という思いと同時に、この記念となる十回目に、こんなに素晴らしい選手と試合ができることに感謝の気持ちでいっぱいになりました。また、全日本選手権という舞台はやはり、試合当日はもちろん前日の選手打ち合わせから、全日本独特の雰囲気があり、総じて最高の舞台でした。このような舞台に立たせていただけなこと、最高の選手と試合ができたこと、

改めて、岐阜県剣道連盟、バローグループ、若草女子剣道クラブ、笠原少年団、そして両親に感謝しています。

二十六年間剣道と共に歩み、剣道を通じて繋がった縁は、私の宝物です。それを強く感じさせてくれた大会となりました。

結果としては満足できるものではありませんでしたが、後悔はありません。会場まで足を運んでくださった方、ライブ中継を見ながら応援をしてくださった方、結果を気にしながら待っていてくださった方、皆様のおかげで頑張ることができました。本当に、ありがとうございます。

## 東海四県大会

男子4位 女子2位

監督 近藤 宏治

本大会は、令和5年3月5日(日)新型コロナの影響を受け4年ぶりに静岡県武道館において開催されました。

試合は、男子の部12人制、女子の部5人制でそれぞれ年齢別で指定され、男子は更に職業別で選手人数を定められたチーム構成で、男女とも4県によるリーグ戦で行われました。

女子については、過去2年連続で準優勝というところで、あと一歩のところまで優勝を逃してきました。「今年こそは」という意気込みで試合に臨みました。

初戦の愛知戦は、慎重になりすぎ全体的に消極的な内容で、1本も取ることができず敗戦しました。試合後、「積極的に攻め、思い切って打つこと」を指示しました。静岡戦では、先鋒の2本勝ちで勢いが

つき、どの試合も愛知戦とは別人のような試合内容で勝利し、最後の三重戦もその勢いのまま勝利することができました。

結果は、2勝1負の準優勝でした。優勝を目指していましたが、残念な思いですが、それぞれの課題に向き合い、来年の優勝を目指して、精進してまいります。

男子の愛知戦は、序盤から中盤にかけて粘り強い試合展開でリードするも、後半自力に勝る愛知に逆転負けを喫しました。

2試合目の静岡戦は、「有効打突だと思つた打ちが1本にならず。また、相手の打ちを防いだが1本になる。」など不運が続く序盤からリードを許す苦しい展開で、後半巻き返すことができず敗戦。次の三重戦は、序盤から引き分けが続く展開で、前半終了時で全くの五分でしたが、後半は、三重県の勢いを止めることができず3連敗の4位の残念な結果でした。

県を代表する選手による試合ですので、自分の思い通りにいかない厳しい試合でしたが、素晴らしい勝ち方をする選手や最後まで必死に1本を守り抜く選手など岐阜県選手の中にも感動を与える試合がありました。

選手の皆さんには、今回の試合で感じ取ったことを今後に生かしていただきたいと思います。

最後に、本大会に際しまして、ご指導ご支援いただきましたことに感謝申し上げます。有り難うございました。

出場選手

- 先鋒 外山 菜緒 警察官
- 次鋒 阿部なるみ 刑務官
- 中堅 猪俣ひかり 刑務官

男子の部

- 副将 中川 節絵 教員
- 大将 曾我司保子 団体職員
- 先鋒 中西 港 教員
- 次鋒 江口 海里 刑務官
- 10将 伊藤 雄平 警察官
- 9将 伊藤 崇司 警察官
- 8将 岩崎 俊成 会社員
- 7将 坂本 太一 教員
- 6将 石垣 徳久 自営業
- 5将 高木 和哉 刑務官
- 4将 樽本 吉秋 警察官
- 3将 森井 俊秀 会社員
- 副将 石樽 和巳 会社員
- 大将 村瀬 智泰 教員

女子の部

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	
愛知県	中村	早川	迫	高松	森島	3 2
		ドメ			メ 一本勝	
岐阜県						0 0
	外山	阿部	猪俣	中川	曾我	